

創立75周年を迎えて

藤 井 栄 一

小樽商科大学は昭和24年5月の学校設置法により、全国の国立68大学とともに大学として発足した。しかし、その前身である小樽高等商業学校は明治43年3月に設立が決まり、明治44年5月5日に第1回の入学式が行われた。本年は、その75周年にあたる。国立の高等商業学校としては、東京、神戸、山口、長崎について長い歴史をもっている。

高等商業学校の機関誌としては「商学討究」が、創立15年の大正15年に創刊されたが、大学として発足し、研究領域が拡大したことにより、昭和25年に「人文研究」が発行され、大学全体の研究活動の成果を公表する場が広まった。大学にとって、狭い分野での専門研究だけでなく、広い視野を持った研究がいかに重要であるかは、必ずしも十分に理解されていないようである。

創立75周年を記念する大学の行事としては、祝典等は全て省き、大学にふさわしい、しかも実質のあるものだけに限定した。幸にも、本学の発展に貢献された南亮三郎元教授所蔵の蔵書2450冊ほか、南亮進氏ならびに本学卒業生の方達により寄贈され、加えて、人口論関係の特別講義を開催することができた。最近の収書としては、英語・英文学関係の古瀬文庫とともに、本学にとって貴重な資料となるものである。

記念行事のもう一つは「人文研究」および「商学討究」の記念号の発行である。これらも75周年を期しての特別な作業の集大成ではなく、不断に続けられている努力の一端を示すものにすぎない。創立75周年は、過去の三・四半世紀の歴史を顧りみる以上に、この間に積蓄された成果にもとづいて、将来の発展を期する機会である。ここに集められた論文が、更に大きな躍進の基礎になるものであることを確信している。

なお、この記念号の刊行のために、社団法人緑丘会および小樽商科大学後援会から多大の援助を受けたことに対して謝意を表したい。